

令和4年度全国農業大学校等意見発表要旨

農業大学校名 岐阜県農業大学校 学科名 野菜・果樹学科 学年 1年 氏名 なかや たすけ 中屋 太助

1 課題 私が農家になるために

2 意見・提言

(1) 私と農業

私は飛騨の地でほうれん草農家の家に生まれました。幼少の頃から、ほうれん草栽培を手伝うようになり漠然と将来自分が継ぐかもと考えるようになりました。

(2) 父への思い

高校進学時の私は父親に対する反発心もあり、父とは違った道に進むため工業高校へ進学しました。そこで、ものづくりの楽しさや仕事のやりがい、外の世界を知ることができました。高校卒業を間近に控えた時、私の目に映った働く父の姿は、尊敬や憧れの対象へと変化し、同時に父を超えられるようになりたいとの思いから農業の道に進むことを決心しました。

(3) 将来へつながる格言

私は、飛騨で産地化が進んでいる、ほうれん草の補完品目になり得るメロンとパプリカについて農業大学校で学びたいと進学し、プロジェクト学習ではメロン、派遣学習ではパプリカを学ぶ機会に恵まれました。そして派遣先の農家さんから私の将来を左右する貴重な格言を手に入れました。

「一日の作業する時間の中でどれだけ効率よく進められるか。また作業に優先順位

をつけておくことが大事。先の事を常に見据えて生活する事を日々意識している。」

この言葉により、作業効率の重要性や効率を高めるための計画作成、情報共有がいかに大切かが理解できるようになり、我が家の経営の見え方も大きく変化しました。

(4) 新たな視点

今の我が家には大きな3つの課題があると感じるようになりました。

- ・労働効率の課題 : 今の経営面積のままで私が就農しても、収益が得られない。
- ・施設設備の課題 : 私の就農に合わせ規模拡大しても、調整場など施設設備の規模が伴わない。
- ・パートさんの高齢化 : 地域全体が高齢化しており、近い将来労力が確保できなくなる。

(5) 私のビジョン

これらの課題を解決するために将来のビジョンを作成しました。

農業大学校卒業後は、父のもとで3年間はほうれん草栽培を学び、実力を養います。私が経営を引き継ぎ、手に入れた格言を胸に経営の効率化を図ります。経営の安定に併せて規模拡大を進めていき、課題となった施設設備は農業準備資金を活用して更新し、解決を図ります。その後、父には水田をメインにシフトしてもらい、空いたハウスにパプリカやメロンを導入して労働効率の課題解決を図ります。

(6) 地域とともに

残されたパートさんの若返りの課題解決は地域の高齢過疎化の問題から解決しなければなりません。

私の地域は過疎化が進み限界集落となりつつあり、地域の存続が危ぶまれている状況です。私を育ててくれた家族、支えてくれた地域の方々があって今の私があります。農業を通してこの地域を発展させ、地域に雇用が生まれる環境ができれば人離れを防ぐことができると思います。その結果、限界集落から脱却させられれば、私の経営の課題解決にとどまらず、今まで支えてくださった方々への最高の恩返しになるのではと考えています。地域を支え、共存していける農家、それが私の目指す農家の姿です。